

2017年度 体育学研究科(体育学専攻) 博士前期(修士)課程シラバス

| 科目名(副題) | 開講年次(セメ) | 授業形態 | 単位 | 担当者名 |
|--|--|------|----|--------|
| 機能解剖学研究 | 1・2年次秋学期 (2・4セメスター) | 講義 | 2 | 倉持 梨恵子 |
| 授業概要 | | | | |
| <p>本講義では、主に運動学の習得に必要な基礎知識としての機能解剖学を扱う。主な授業内容は上肢・脊柱・下肢の骨格の概要と役割、関節の構造と静的安定機構、神経-筋の走行と動きについて部位別に解説する。更に、スポーツ外傷・障害との関わりやスポーツ動作の解釈、トレーニングへの応用などにも触れ、スポーツ医科学の学習・研究とのつながりを踏まえた内容とする。</p> | | | | |
| 授業目標(到達目標) | | | | |
| <p>運動器である骨・関節・筋・神経の基本構造を理解すること。 部位ごとの解剖学的特徴を把握し、運動を行った際にそれらの特徴がどのように動きに反映されるのか、あるいは構造の破たんであるスポーツ傷害がどのように起こるのか、解剖学的要因に則してそのメカニズムを理解することを目標とする。</p> | | | | |
| 成績評価方法・基準 | | | | |
| 解剖学用語や構造の暗記だけでなく、それらを自らの研究テーマや実践・指導に応用し、考察できるかどうかによって評価する。 | | | | |
| 教科書・教材・参考文献 等 | | | | |
| <p>【テキスト】指定なし。 【資料】授業ごとに配布する。 【参考書】身体運動の機能解剖(医道の日本社)、プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)、筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版株式会社) 他</p> | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | 項目・内容 | | | |
| 1 | 機能解剖学の基礎:解剖学で用いる用語、各部位に共通する一般的な事項、法則などについて理解する。 | | | |
| 2 | 肩関節・肩甲帯の骨格と静的安定機構:肩関節および肩甲帯の骨・靭帯・関節等の静的安定機構の構造を理解する。 | | | |
| 3 | 肩関節・肩甲帯の筋と動きの理解:肩関節および肩甲帯の神経-筋と動きの機能解剖を理解する。 | | | |
| 4 | 肘関節の骨格と静的安定機構、筋と動きの理解:肘関節の骨・靭帯・関節・神経-筋および動きを理解する。 | | | |
| 5 | 手関節の骨格と静的安定機構、筋と動きの理解:手関節の骨・靭帯・関節・神経-筋および動きを理解する。 | | | |
| 6 | 上肢の神経支配:中枢神経と末梢神経、運動神経と感覚神経、上肢の神経支配について理解する。 | | | |
| 7 | 体幹の骨格と静的安定機構:脊柱および胸郭の骨・靭帯・関節等の静的安定機構の構造を理解する。 | | | |
| 8 | 体幹の筋と動きの理解:脊柱および胸郭の神経-筋と動きの機能解剖を理解する。 | | | |
| 9 | 股関節の骨格と静的安定機構:股関節の骨・靭帯・関節等の静的安定機構の構造を理解する。 | | | |
| 10 | 股関節の筋と動きの理解:股関節の神経-筋と動きの機能解剖を理解する。 | | | |
| 11 | 膝関節の骨格と静的安定機構:膝関節の骨・靭帯・関節等の静的安定機構の構造を理解する。 | | | |
| 12 | 膝関節の筋と動きの理解:膝関節の神経-筋と動きの機能解剖を理解する。 | | | |
| 13 | 足関節・足部の骨格と静的安定機構:足関節および足部の骨・靭帯・関節等の静的安定機構の構造を理解する。 | | | |
| 14 | 足関節・足部の筋と動きの理解:足関節および足部の神経-筋と動きの機能解剖を理解する。 | | | |
| 15 | 下肢の神経支配:中枢神経と末梢神経、運動神経と感覚神経、上肢の神経支配について理解する。 | | | |
| 履修者へのコメント・学習課題(事前事後学習) | | | | |
| <p>応用的な内容を扱うため、それぞれの単元における骨・筋の名称について、予習しておくこと。 授業で扱った内容(部位)について、自らの経験や実践に活かす場面との関連を考察し、復習すること。</p> | | | | |